

拠点形成研究交流報告：Prof. Geert Wiegertjes (ワーゲニンゲン大学) によるセミナーと研究討論



本研究拠点形成事業のオランダにおける拠点機関である Wageningen 大学から、Prof. Geert Wiegertjes を 8 月 3 日から 8 月 8 日まで招聘し、セミナーおよび研究討論を行なった。

8 月 3 日の夜から 4 日にかけて、本事業の日本側メンバーの原田昌彦と研究打合せを行なった。本年 5 月には原田がワーゲニンゲン大学を訪問して、共同研究計画について打合せを行ったが、今回は共同研究の準備状況や実験実施に向けた具体的な取り組みなどについて、より稔密な打合せを行うことができた。また、原田研究室の院生である横山吟司が、本年 10 月から Prof. Wiegertjes の研究室に留学することから、横山の留学中の研究課題についても、具体的な討論を行った。

8 月 4 日の夕方には、本学大学院農学研究科セミナー室において、主に学生を対象としたセミナーが開催された。学生のほかにも、数名の本学拠

点形成事業メンバーが参加した。このセミナーでは、Innate immunity のメモリー機構について、魚類の免疫や行動の研究成果に基づいて講演していただいた。領域外の参加者にも理解しやすいように、十分なイントロダクションを加えたため、参加した学生にとっても理解しやすい内容となり、大変に好評であった。セミナー後は、本学農学研究科の水産施設見学や、研究打合せを行ない、さらに学生も交えて、食事をしながらの交流会も行われた。



8 月 7 日から 8 日にかけては、本学青葉山コモンズで開催された Tohoku Forum for Creativity “New



Horizons in Food Science via Agricultural Immunology” の Stage 2 Symposium “Food safety and Functional Evaluation” において、“Fish health and immunology: lessons from infectious agents” のタイトルで講演いただいた。講演後には、活発な質疑応答が行われたことに加え、その後の昼食会や交流会でも、拠点形成事業メンバー、あるいは若手研究者や学生との意見交換でも、討論の輪の中心に Prof. Wiegertjes の姿が見られた。

食と農免疫国際教育研究センター 副センター長
分子生物学分野 原田 昌彦